

通訳の視点からコミュニケーションを考える

皆さんは通訳と聞いて何を思い浮かべますか？「映画の字幕」や「同時通訳」という声が寄せられることがよくありますが、まず、映画の字幕は通訳ではなく翻訳です。同時通訳は通訳の一形態ですが、通訳の世界では通訳の基本は逐次通訳とされています。通訳と翻訳は何が異なるのか、逐次通訳と同時通訳は何が異なるのか、また、通訳の基本である逐次通訳のプロセスについて紹介します。

1. 通訳と翻訳の違い

通訳と翻訳は、いずれもある言語を別の言語に訳すという共通点がありますが、通訳は話し言葉を訳すのに対して、翻訳は書き言葉を訳すという相違点があります。また、訳出をする時に、通訳は基本的には*音声で表現するのに対し、翻訳は文字で表現します。（*例外として手話通訳があります）

2. 逐次通訳と同時通訳の違い

通訳の形態には、逐次通訳と同時通訳があります。逐次通訳は、話し手が話のまとまりごとに一旦止まり、通訳者が訳出を行う、その交互のプロセスを繰り返します。どの程度で話を区切るかは状況により異なり、話し手と通訳者の間では息の合ったコミュニケーションが必要となります。同時通訳は、話し手が話を途中で止めずに話し続け、通訳者はその数秒遅れで通訳をします。そのため、聞くことと、聞いた内容を理解して別の言語で訳出することを同時に行うこととなります。話し手と通訳者は同時に話しているため、聞き手は、必要に応じて話し手の発話か通訳者の訳出かのどちらかを選んで聞くこととなります。

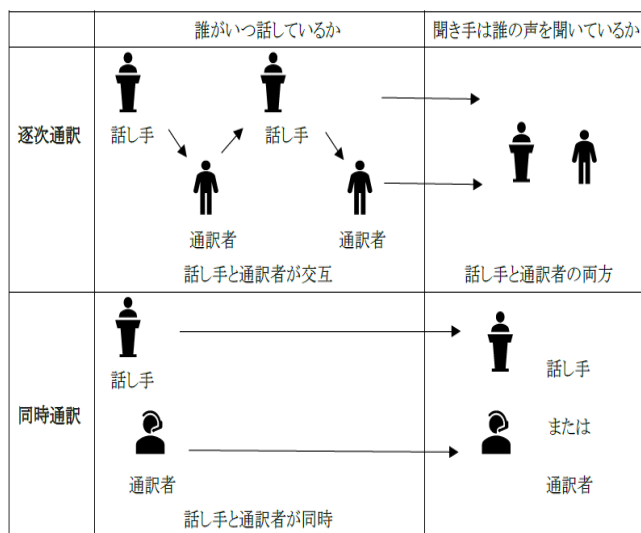


図1: 逐次通訳と同時通訳の違い

3. 逐次通訳と同時通訳の違い

逐次通訳のプロセスを段階的にみると、①聞き取り、②理解・分析、③記憶保持、④音声表現で訳出の4つのプロセスに分けられます。まず、話し手の発言を正確に聞き取り、理解・分析することができなければ、話し手が伝えたいメッセージを正確に捉えて通訳することはできません。また、逐次通訳の場合は、訳出するまで覚えておく記憶保持が特に求められます。さらに、記憶保持した内容を、音声で訳出し、聞き手に伝わって初めて通訳ができたことになります。

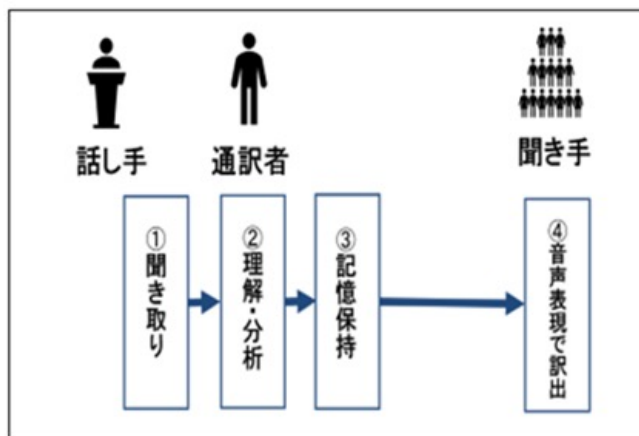


図2: 逐次通訳のプロセス

考えるヒント：

- ✓ 通訳と翻訳の違いから、通訳の難しさや特徴にはどのようなことがあると思いますか？
- ✓ 同時通訳と比較して、逐次通訳にはどのような難しさや特徴があると思いますか？
- ✓ 逐次通訳のプロセスを参考に、二つの言語ができれば通訳は誰でもできると思いますか？